

このひと

日本分析化学会会長に就任される

寺部 茂 氏

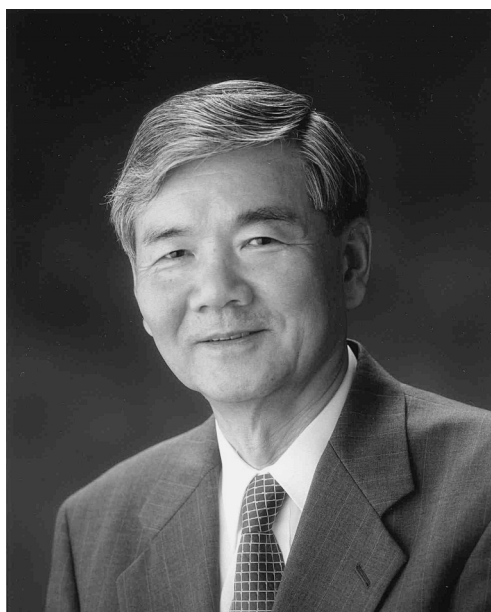
(Shigeru TERABE
姫路工業大学大学院理学研究科教授)

1963年京都大学工学部工業化学科を卒業。1965年京都大学大学院工学研究科工業化学専攻修士修了後、塩野義製薬研究所勤務。1973年工学博士(京都大学)。1978年8月京都大学工学部助手。1984年4月京都大学工学部助教授。1990年4月姫路工業大学理学部教授。現在に至る。1995年 Martin Gold Medal。1995年 Frederick Conference on Capillary Electrophoresis 賞。1996年日本分析化学会学会賞。1999年 1999 M. J. E. Golay 賞。2001年兵庫県科学賞。2004年 ACS 2004 National Award in Chromatography 受賞。

寺部先生の御業績の中で最も有名なものは、言うまでもなく「ミセル動電クロマトグラフィーの開発」に関するご研究であると思います。キャピラリー電気泳動によって中性分子を分離するこの新手法に関する論文は、1984, 85年の *Anal. Chem.* 誌に1報ずつ掲載され、それぞれ1124回、855回の引用回数(2004年1月8日現在)を誇り、現在も引用され続けています。まさに世界中が“度肝を抜いた”研究であり、日本が生み出した世界に誇れる分析方法の一つでありましょう。寺部先生は、現在もキャピラリー電気泳動分析における困難かつ本質的な課題に積極的に取り組んでおられます。キャピラリー電気泳動分析における低い濃度感度を向上させるために様々なオンライン試料濃縮法を開発し、中でもミセルを用いた sweeping 法は、1998年の *Science* 誌に掲載される成果となっています。このようなキャピラリー電気泳動分析に関する寺部先生の御業績は国内外で高く評価され、多くの賞を受賞されておられます(略歴に記載)。中でも、本年3月に受賞された ACS 2004 National Award in Chromatography は日本人初でもあり、特筆に値する賞と言えましょう。

以上の輝かしい研究業績から、「寺部先生のご研究と言えばキャピラリー電気泳動」という印象が強く残ります。しかしながら、寺部先生の博士論文テーマが「Application of electron spin resonance spectroscopy to problems of structure and mechanism」であったことは、若い世代の方々にはあまり馴染みがないかもしれません。私もそれを初めて知ったときには大変驚きました。しかも、その ESR の研究が5報の *J. Am. Chem. Soc.* 誌に掲載される成果であり、寺部先生の真摯な取り組みはどの分野の研究をされても高く評価されるものなのだ、ということを実感させられたことを覚えております。

寺部先生は日本電気泳動学会評議員、日本分析化学会近畿支部長、クロマトグラフィー科学会理事を歴任され、現在はクロマトグラフィー科学会会長、日本分析化学会副会長のほかに日



本学会議化学研究連絡委員会委員という要職をご担当されています。大学内においても、1998, 1999年度の姫路工業大学理学部長を務められ、学会組織、大学組織をまとめ上げることにご尽力されました。

寺部先生は、教育に関しても熱心に取り組んでおられます。姫路大の分析化学の講義では、講義内容・練習問題・最新の関連トピックスに関する膨大な量のプリントを毎回丁寧に準備されておられます。また、京大時代に学生実験と授業でお世話になったという同年代の友人から聞いた話では、寺部先生のご担当された2年生の分析化学の授業は、英語の教科書をわかりやすく解説してくれる授業で評判がよく、学生の間でも非常に人気の講義であったそうです。

寺部先生の温厚なお人柄は、日々、食堂で学生やポストドクと一緒に食事をされる様子から感じることができます。外国人の多い寺部研では英語と日本語をうまく交えながらコミュニケーションをとることが重要ですが、日本語中心の学生の話題と英語中心の外国人の話題をうまくつなぐように気遣いながら、気さくにお話される寺部先生のお姿は、研究室主催者というよりも優しい父親肌などを感じさせて下さいます。

最後になりますが、先日の学会後の飲み会でたまたま小耳にはさんだ寺部先生のお言葉をご紹介させていただきたいと思えます。それは、「誰もが避けて通ることのできない論文を書かなければならない」というものです。このお言葉は、研究に対する取り組みの在り方、そして寺部先生ご自身が実践してきた研究哲学として、その場におられた多くの先生方の心に強く残るものであったと思います。しかしそれ以上に、このような寺部先生の高い理念と実行力こそ、創立50年以上の歴史を持つ日本分析化学会をまとめる求心力として強く働くものと思えます。今後、寺部先生が牽引する日本分析化学会の発展を心よりお祈り申し上げます。

[姫路工業大学大学院理学研究科 久本秀明]